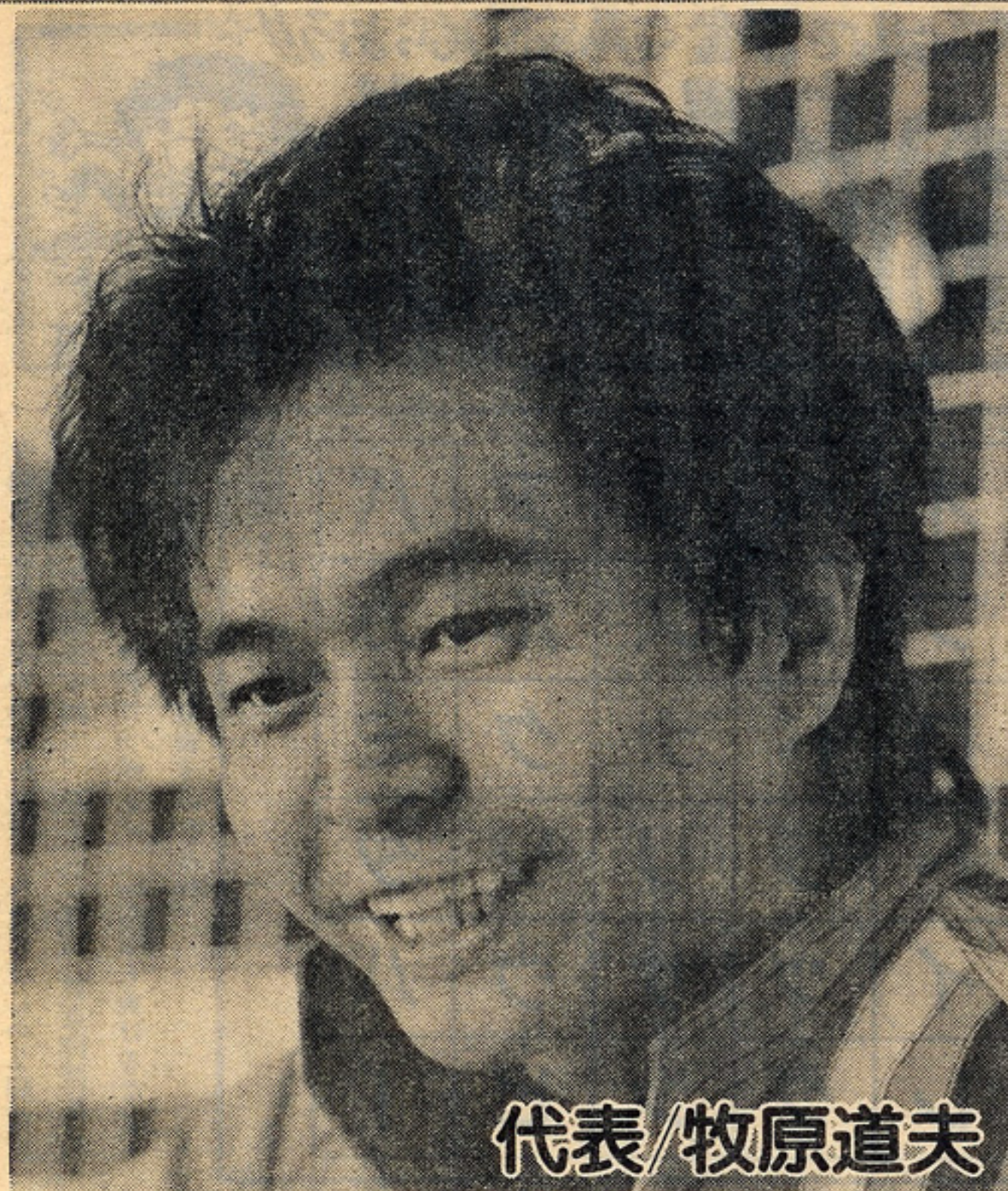


ベート・チューナー列伝

第4回

テクニカルサービス・トライアル

今のチューニングは勘では出来ない。
最新の機械を導入して分析せにや、
エンジンいくつあっても足りないで。



代表/牧原道夫

他の多くのチューナーがそうであるように彼もチューニング・データのない時代に育った。チューニングに対する熱心さ、そして冷静な目が彼のガレージに次々と最新設備を導入させた。日本最速の記録は半年で破られてしまった。そして新たなチャレンジャーとしてトライする彼の原動力は、楽しいお客さんとのふれあいであり、彼を慕ってくれるスタッフなのだ。

燃えるような赤っこそスポーツカー。S30Zは僕の青春だ

■ チャレンジで目覚めた

鹿児島県出身。小・中学校時代をここで過ごした牧原道夫は高校は普通科、大学も経済学部と、チューニングにはまったく縁のないところを出た。

そして、大阪のチャレンジというカー用品ショップに就職。最初のうちは一般的な用品しか置いていなかったその店も少しずつチューニングパーツも扱うようになり、ついにチューニングも始めだした。「それが53年くらいだったね。チューニング熱が高まってくると、どうしても自分の店を持ちたくなり、57

年6月、テクニカルサービス・トライアルを発足。61年10月に株式会社になったんだ。

今ではデータが各ショップから揃えられるけど、その頃は独学でチューニングしなくちゃいけなかった。だから、ずいぶん失敗もしたっけな。」と当時を振り返る。

■ 赤い車が好きやねえ

彼は、16歳になったらすぐに単車に乗った。CB350Fだった。そして18歳で車に乗るといって、普通のバイク。初の愛車はサバンナRX-3。当時はラジアルタイヤが普及し始めた